

## 教科目名 哲学概説 (Philosophy)

学科名・学年 : 全学科 5年 (教育プログラム 第2学年 ○科目)

単位数など : 選択必修 2単位 (前期1コマ, 後期1コマ, 学習保証時間 45時間)

担当教員 : 堀 栄造

授業の概要			
西洋現代哲学を概説する。プラグマティズムや新実在論や分析哲学といった英米哲学, 生の哲学や現象学や実存哲学といった独仏哲学について概観する。			
達成目標と評価方法		大分高専目標(A1), JABEE 目標(a)	
(1) 西洋現代哲学を概観することによって, 哲学的思考の仕方を理解する。(定期試験)			
(2) 我々にとって異文化といえる西洋の思考および西洋の文化に接し, 地球的視点から多面的に物事を考える力を身に付ける。(定期試験)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1	プラグマティズム (パース)	○パース, ジェイムズ, デューイの哲学について理解できる。 ○ラッセル, マッハ, ヴィットゲンシュタインの哲学について理解できる。 ○フォイエルバッハ, マルクスの哲学について理解できる。	【理解の度合い】
2	同上 (ジェイムズ)		
3	同上 (デューイ)		
4	新実在論 (ムア・ラッセル)		
5	分析哲学 (マッハ・ヴィットゲンシュタイン)		
6	弁証法的唯物論 (フォイエルバッハ)		
7	弁証法的唯物論 (マルクス)		
8	前期中間試験		【試験の点数】 点
9	前期中間試験の解答と解説	○ショーペンハウアーの哲学について理解できる。 ○ニーチェの哲学について理解できる。 ○ベルクソン, デイルタイの哲学について理解できる。	【理解の度合い】
10	生の哲学 (ショーペンハウアー)		
11	同上 (ニーチェ)		
12	同上 (ニーチェ)		
13	同上 (ベルクソン)		
14	同上 (デイルタイ)		
15	前期期末試験		【試験の点数】 点
16	前期期末試験の解答と解説		
16	現象学 (フッサール)	○フッサールの哲学について理解できる。 ○シェラー, メルロー・ポンティの哲学について理解できる。 ○キルケゴール, ヤスパースの哲学について理解できる。	【理解の度合い】
17	同上 (フッサール)		
18	同上 (フッサール)		
19	同上 (シェラー)		
20	同上 (メルロー・ポンティ)		
21	実存哲学 (キルケゴール)		
22	同上 (ヤスパース)		
23	後期中間試験		【試験の点数】 点
24	後期中間試験の解答と解説	○ハイデガーの哲学について理解できる。 ○サルトルの哲学について理解できる。 ○フロイトの精神分析学について理解できる。	【理解の度合い】
25	実存哲学 (ハイデガー)		
26	同上 (ハイデガー)		
27	同上 (サルトル)		
28	同上 (サルトル)		
29	精神分析学派 (フロイト)		
30	後期期末試験		【試験の点数】 点
31	後期期末試験の解答と解説		
履修上の注意	ノートをしっかり取り, 質疑応答などは積極的に発言すること。		【総合達成度】
教科書	プリント配布。		
参考図書			
関連科目	哲学特論Ⅰ (専攻科2年), 哲学特論Ⅱ (専攻科2年), 倫理 (2年)。		
総合評価	4回の定期試験により評価する。評価が60点以上を合格とする。		
			【総合評価】 点

## 教科目名 歴史学概説 (History)

学科名・学年 : 全学科 5年 (教育プログラム 第2学年 ○科目)

単位数など : 選択必修 2単位 (前期1コマ, 後期1コマ, 学習保証時間 45時間)

担当教員 : 田中美穂

授業の概要			
先史時代から現代までのブリテン諸島史について講義する。日本で一般に「イギリス」と呼ばれている国は、イングランド、ウェールズ、スコットランド、北アイルランドからなる連合王国であり、隣国アイルランドとあわせてブリテン諸島地域を構成する。ブリテン諸島内各地の「ネイション」意識の形成やナショナリズムの動き、および、かつてブリテンの支配や侵攻を受け、現在まで紛争が絶えないインドやパレスティナなどの地域にも注目して授業を進める。			
達成目標と評価方法		大分高専目標(A1), JABEE 目標(a)	
(1) ブリテン諸島の多様性、および「ネイション」意識やナショナリズムの動きについて理解する。(定期試験)			
(2) 帝国主義の時代が生んだ負の遺産である地域紛争が起こる原因、および紛争解決に向けた取り組みについて理解する。(定期試験)			
(3) 講義内容から選んだ歴史的なテーマについて考え、論述する力を身につける。(定期試験)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1	ブリテン諸島の多様性	○「イングランド中心史観」や「ケルト・ブーム」を克服し、「ブリテン諸島史」の重要性について理解できる。 ○海外からのブリテン諸島内への民族移動について理解できる。 ○ブリテン諸島のそれぞれの地域の王国形成史について理解できる。	【理解の度合い】
2	イングランド中心史観と「ケルト」		
3	鉄器時代とローマン・ブリテン		
4	初期キリスト教時代		
5	ヴァイキングとノルマン人		
6	中世のイングランド		
7	中世のウェールズ		
8	前期中間試験		【試験の点数】 点
9	前期中間試験の解答と解説	○現在につながる各地の「ネイション」意識の形成について理解できる。 ○「アーサー王」とイングランド王権との関係、および「アーサー王をめぐる」史実と伝説の違いについて理解できる。 ○中世から近世にかけてブリテン諸島の歴史が理解できる。	【理解の度合い】
10	中世のスコットランド		
11	中世のアイルランド		
12	百年戦争		
13	「アーサー王」伝説		
14	テューダー朝：エリザベス1世の時代		
15	前期期末試験		【試験の点数】 点
	前期期末試験の解答と解説		
16	ステュアート朝からハノーヴァー朝へ：ブリテン帝国の出現	○ブリテン諸島の他地域に対するイングランドの支配や勢力拡大について理解できる。 ○帝国主義の問題点について理解できる。 ○ブリテン帝国の植民地とされた国々が独立を達成するまでの過程を理解できる。 ○今も続くブリテンの旧植民地や旧委任統治地域の紛争について理解できる。	【理解の度合い】
17	帝国主義と植民地		
18	ブリテン諸島から北アメリカへ		
19	アイルランドの独立		
20	ブリテンとインド		
21	ブリテンとパレスティナ		
22	ブリテンとイラク		
23	後期中間試験		【試験の点数】 点
24	後期中間試験の解答と解説	○非戦・紛争解決や貧困撲滅のために行われてきた取り組みについて理解できる。 ○19世紀にグローバルな展開を見せて世界の覇者となったブリテンが、現在抱える諸問題について理解できる。 ○現代のブリテン諸島の社会や文化の特色について理解できる。	【理解の度合い】
25	北アイルランド紛争		
26	ブリテン諸島と階級社会		
27	ブリテン諸島と移民の問題		
28	現代のブリテン諸島の文化(1)		
29	現代のブリテン諸島の文化(2)		
30	後期期末試験		【試験の点数】 点
	後期期末試験の解答と解説		
履修上の注意	講義中に話す内容について、各自でしっかりノートまとめをすること。		【総合達成度】
教科書	毎回、レジュメや資料を提供する。		
参考図書	毎回、授業で紹介する。		
関連科目	歴史学特論Ⅰ・Ⅱ(専攻科1年), 世界史(2年)		
総合評価	1回の欠席につき2点を減点。4回の試験の平均点から欠席回数×2点を減点して総合評価を出す。ただし、病気など特別な理由で欠席した場合は、申し出れば減点対象とはしない。総合評価60点以上が合格。		

